

【研究論文】

教員等採用試験対策チャレンジセミナーの現状と課題 ～令和4（2022）年度の取組を中心に～

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐 伯 育 郎

はじめに

筆者は、これまで教職センター年報において教員採用試験対策チャレンジセミナー（以下、セミナー）の実践報告や考察をしてきた¹⁾。セミナーとは、正規の授業ではなく、課外で行われる自由参加型の取組である。学生の要望に応える形で本学教員によって開催されることを前提としており、学生の主体的な学びを支援するものである。学生と教員、学科と教職センターとの連携・協働によって行われる取組であり、本学独自の営みといえる²⁾。

そこで、本研究では令和4（2022）年度セミナーの成果と課題を見出し、その省察を受けて令和5（2023）年度以降のセミナーのあり方を検討することが目的である。研究の方法としては、令和4（2022）年度のエデュケーション学科4年生（1期生）と人間栄養学科4年生、令和5（2023）年度のエデュケーション学科4年生（2期生）と人間栄養学科4年生、その指導にあたった教員を対象としたアンケートを実施し、結果について分析・考察していくこととする。再度セミナーのあり方について省察する契機になるとともに、今後の方向性を探る材料になると筆者は考える。誌面の関係から、本稿ではまず令和4（2022）年度セミナーの現状、成果と課題から論じていくこととする。

I 令和4（2022）年度セミナーの調査結果 ～教員の視点から

令和4（2022）年度に実施したセミナーに関する教員対象アンケート結果を報告する。調査期間は2022年9月から10月にかけてであり、調査方法はMicrosoft formsを用いて実施した。令和3（2021）年度のアンケートで使用されたMicrosoft Wordによる質問紙の内容を踏襲しつつ、設問を修正・追加して調査を行った³⁾。教職センターから関係教員に学内メールを通じてアンケートの回答を依頼した。回答数は16（グラフ中の人数は教員数）である（回答率62%）。ここでのセミナーは、小学校・中学校・高等学校の取組を中心としている。なお、この調査結果は「2022年度 BMS活動報告 学生の進路希望に応じた就職支援の充実」として2023年3月実施のエデュケーション学科会において筆者が報告した。

1. 春季セミナー・コマ数

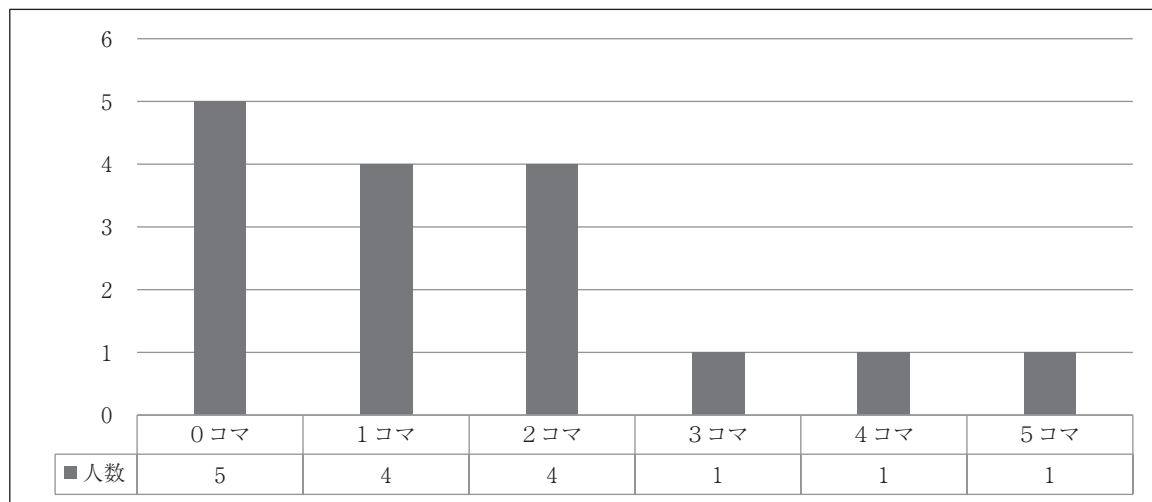


図1 【春季セミナーの担当コマ数】

セミナーは、開催時期によって春季セミナー、前期セミナー、夏季セミナーに大別できる。ここでは、春期休業中に行われる春季セミナーのコマ数について報告する。結果は図1の通りである。回答した全教員の合計は24コマ⁴⁾であり、教員の専門分野などによってコマ数は異なっている。各教科の学習指導要領や内容、個人面接などの一次試験対策が主な内容である。

2. 前期セミナー・コマ数

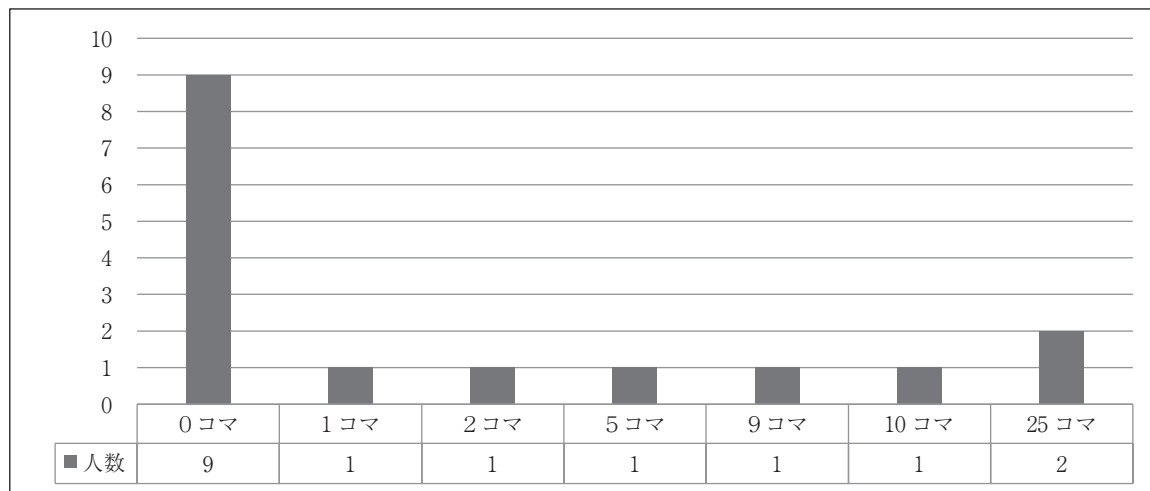


図2 【前期セミナーの担当コマ数】

次に、前期中に行われる前期セミナーのコマ数について報告する。各教科等の内容、教職教養、個人・集団面接、集団討論、実技（音楽・体育）などの一次・二次試験対策が主な内容である。結果は図2の通りである。回答した全教員の合計は77コマであった。

3. 志願書等・指導回数

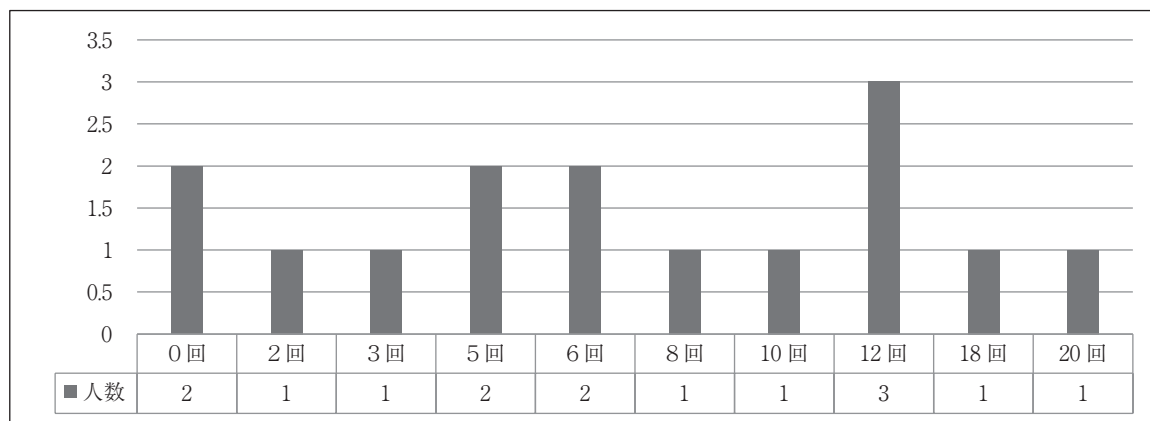


図3 【志願書などの指導回数】

次に、前期中に行われる志願書等の指導回数について報告する。一斉指導ではなく、教員が担当しているゼミ学生などを対象とした個別指導が中心となる。結果は図3の通りである。延べ人数84人、合計93回であった。

4. 小論文・指導回数

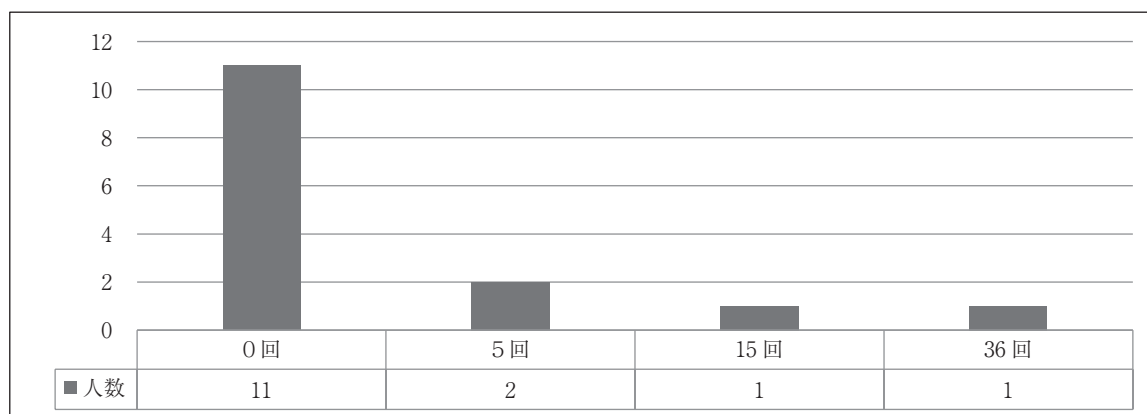


図4 【小論文の指導回数】

次に、前期中に行われる小論文の指導回数について報告する。セミナーという一斉指導ではなく、個別指導が中心である。主に国語系の教員を中心として指導が行われた。結果は図4の通りである。延べ人数26人、合計61回であった。

5. 夏季セミナー・コマ数

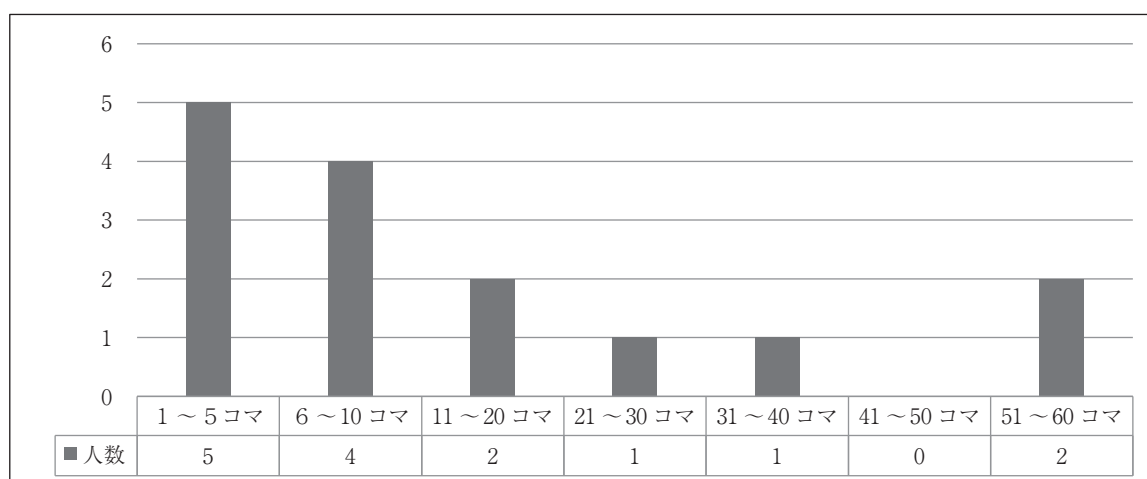


図5 【夏季セミナーの担当コマ数】

次に、7月下旬から9月にかけて行われる夏季セミナーについて報告する。模擬授業・場面指導、個人・集団面接、集団討論、実技（音楽・体育）、板書指導など二次・三次試験対策が主な指導内容である。結果は図5の通りである。延べ人数461人、235コマであった。1人平均約29人、15コマという結果となった。

6. その他の指導内容

次は、その他の指導内容を自由記述していただいた。その他の指導内容としては、英語実技（スピーチなど）、質問対応、セミナー委員との打ち合わせ、幼児教育コースの指導などが挙げられた。改めて本学教員が様々な専門分野や立場から学生の指導・支援をしていることがうかがえた。

7. セミナーへのご意見・ご要望

次に、セミナーへの意見・要望を自由記述していただいた。筆者が回答を抜粋し、要約すると次のようになる。

- ・教育学部として持続可能な体制が必要である（2人）。
- ・一部の教員が頑張る体制はよくない（2人）。
- ・学生が教員からしてもらうことのみを考え、受動的である。
- ・教職センターが学生に丸投げになってはいけない。

- ・県人会などのグループによっては意識が高く、グループ編成が重要である。
 - ・就職課などとの連携・協力も必要である。
- 課題としては、持続可能な体制の必要性、教員による担当数の平滑化の必要性、学科・学生・就職課などと教職センターとの連携・協働の必要性、学生の意識改革の必要性などが挙げられた。

Ⅱ 令和4（2022）年度セミナーの調査結果 ～学生の視点から

続いて、2022年度セミナーに関する学生対象アンケート結果について報告する。調査期間は2022年9月から11月にかけてであり、調査方法はMicrosoft formsを用いて実施した。教職センターから学生にユニバーサルパスポートの学生通知を通じてアンケートを依頼した。対象は教育学科4年生（1期生）、人間栄養学科4年生であり、回答数は34（グラフ中の人数は学生数）である。回答数34の内訳は、教育学科4年生（1期生）は初等教育専攻27人、中等教育専攻2人、人間栄養学科5人の回答であった（回答率44%）。

1. 春季セミナー・コマ数

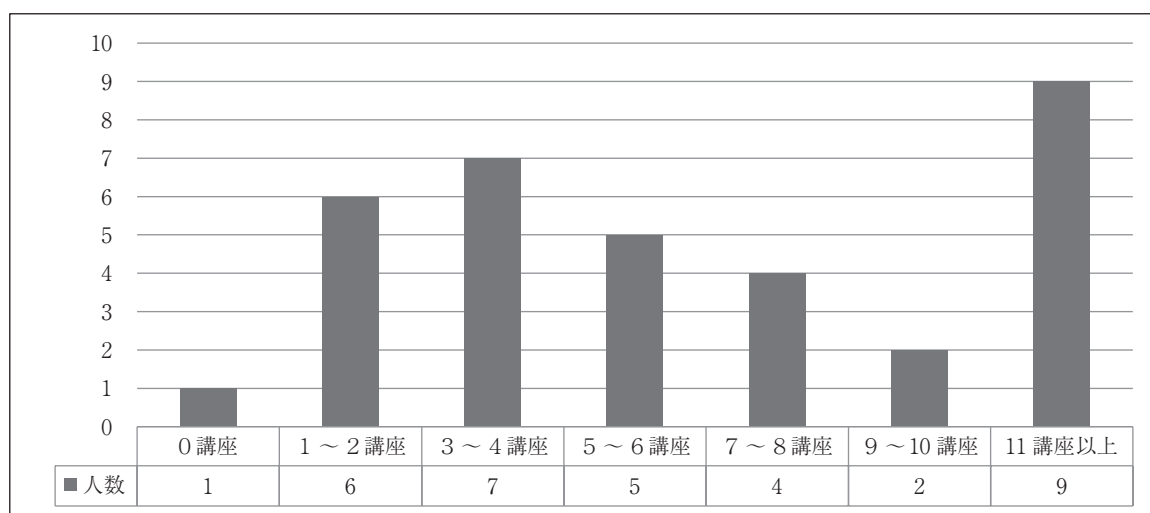


図6 【春季セミナーの参加講座数】

春季セミナーの参加講座数は図6の通りである。春季セミナーでは、11講座以上参加した学生が最も多かった。一方で、まったく受講していない学生も認められた。

2. 春季セミナー・成果

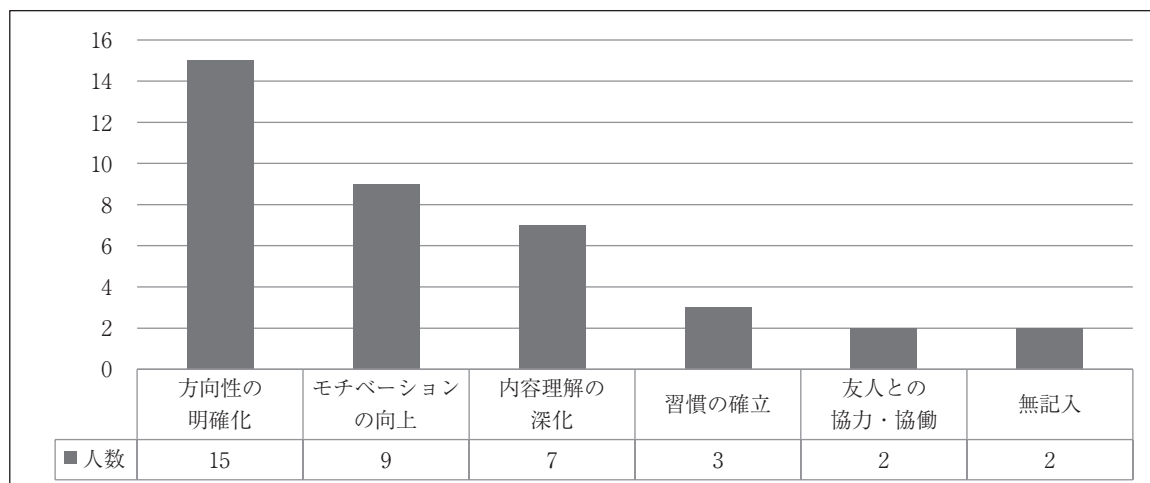


図7 【春季セミナーの成果】

本設問「あなたの受験勉強にどのような影響を与えましたか。良かった点について考えを記述してください。」は自由記述であった。筆者が無記入も含めて回答を6項目に分類して集計した。例えば「教採に向けて具体的に何をすればいいのか知ることができた。」(初等教育専攻)といった回答を「方向性の明確化」,「向上心をあげる影響があった。」(初等教育専攻)といった回答を「モチベーションの向上」,「決まった時間にセミナーがあったため、休み期間中でも定期的に勉強する習慣が身についた。」(初等教育専攻)といった回答を「習慣の確立」,「友達と一緒にがんばれた。」(初等教育専攻)といった回答を「友人との協力・協働」として筆者がまとめた。結果は図7の通りである。教員採用試験に向けた取組がまだ序盤であることから、6項目に分類した中では「方向性の明確化」が最も多かった。

3. 春季セミナー・反省点

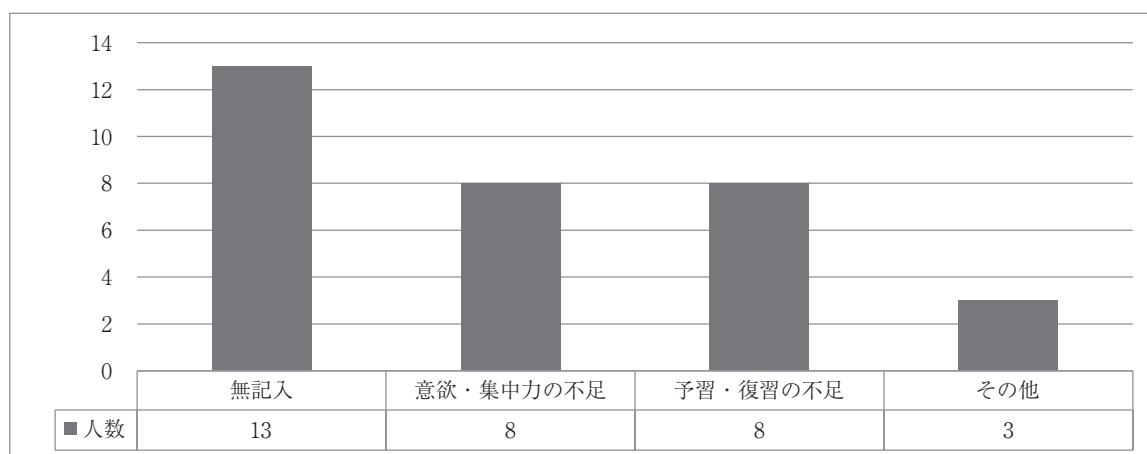


図8 【春季セミナーの反省点】

本設問「あなたの反省点があれば記述してください。」に対する回答も、無記入も含めて筆者が4項目に分類して集計した。例えば「まだ気持ちが入っておらずオンラインだったこともあって集中ができていなかった。」(初等教育専攻)といった回答を「意欲・集中力の不足」,「学力を定着させるために予習や復習にもっと力を入れたらよかった。」(初等教育専攻)といった回答を「予習・復習の不足」として筆者がまとめた。結果は図8の通りである。無記入が最も多く、「意欲・集中力の不足」と「予習・復習の不足」が同数の結果であった。春季セミナーが行われていた当時はコロナ禍(2022年1月9日から2月20日まで広島県にまん延防止等重点措置命令が出ており、のちに3月6日まで期間を延長した。)であったため、2022年2月21日のスタート会から3月11日の振り返り会までの全講座をオンラインで実施した³⁾。その他の回答としては、「二次対策(模擬授業)を春休みからしておくと試験直前に焦らないのではないか。」(中等教育専攻)という意見があった。

4. 春季セミナーへの要望・改善点

設問「教職センターや教員に改善して欲しい点、新たに入れて欲しい内容があれば記述してください。」に対する回答は無記入が多かった。少数ではあったが、「家庭科・生活科もできたらよかった。」(初等教育専攻),「実習と被ってしまった際にオンラインでのセミナーも開いてほしかった。」(人間栄養学科)などの回答があった。

5. 前期セミナー・コマ数

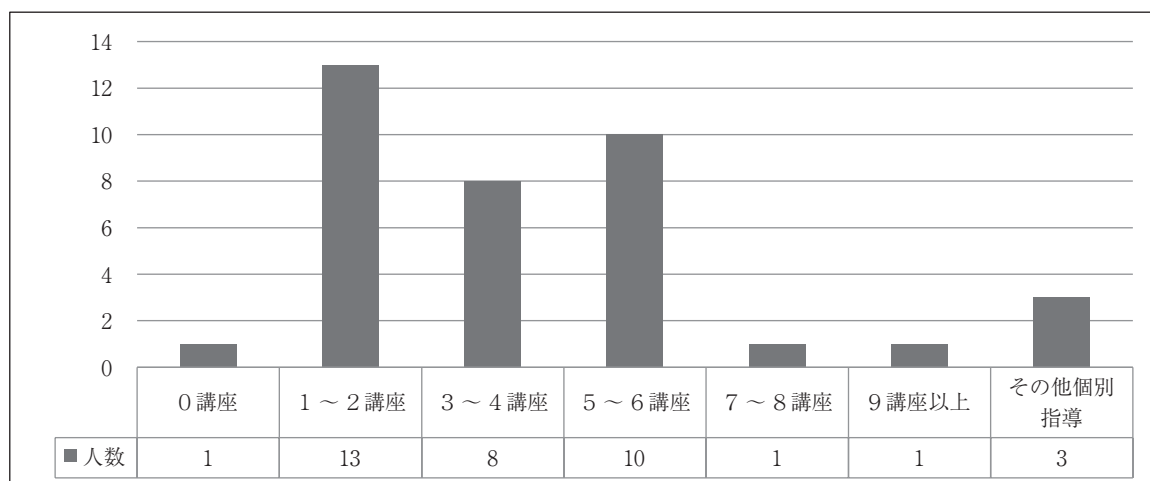


図9 【前期セミナーの参加講座数】

次に、前期セミナーをどのくらい受講したか質問した結果、図9の通り1～2講座が最も多いことがわかった。

6. 前期セミナー・成果

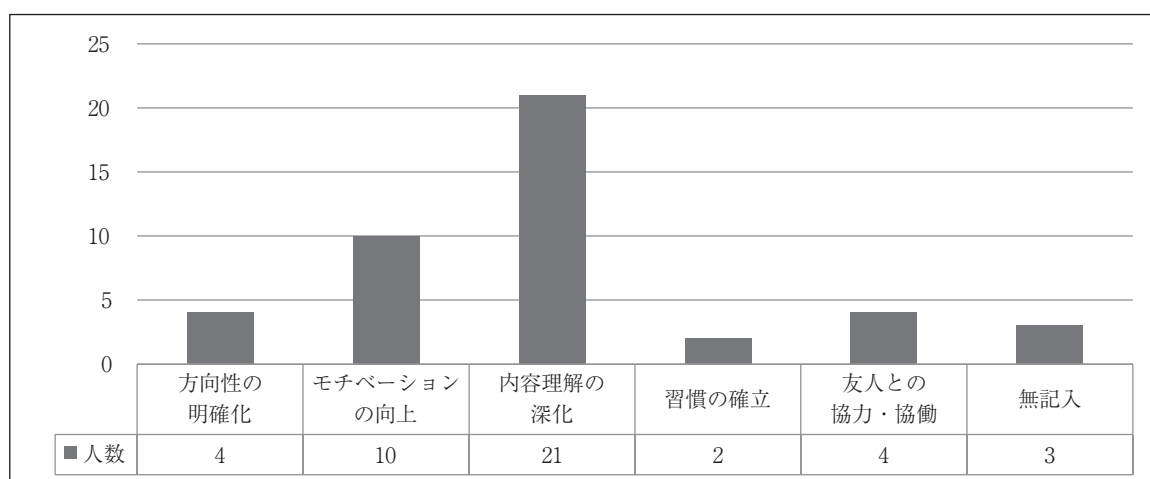


図10 【前期セミナーの成果】

本設問「あなたの受験勉強にどのような影響を与えましたか。良かった点について考えを記述してください。」は自由記述であった。筆者が無記入も含めて回答を6項目に分類して集計した。例えば「自分でしている学習と照らし合わせながらセミナーを受講することで学力定着に繋がった。」（初等教育専攻）といった回答を「内容理解の深化」として筆者がまとめた。その他の回答は、春季セミナーの成果と同様に分類した。結果は図10の通りである。「内容理解の深化」が最も多い回答となった。

7. 前期セミナー・反省点

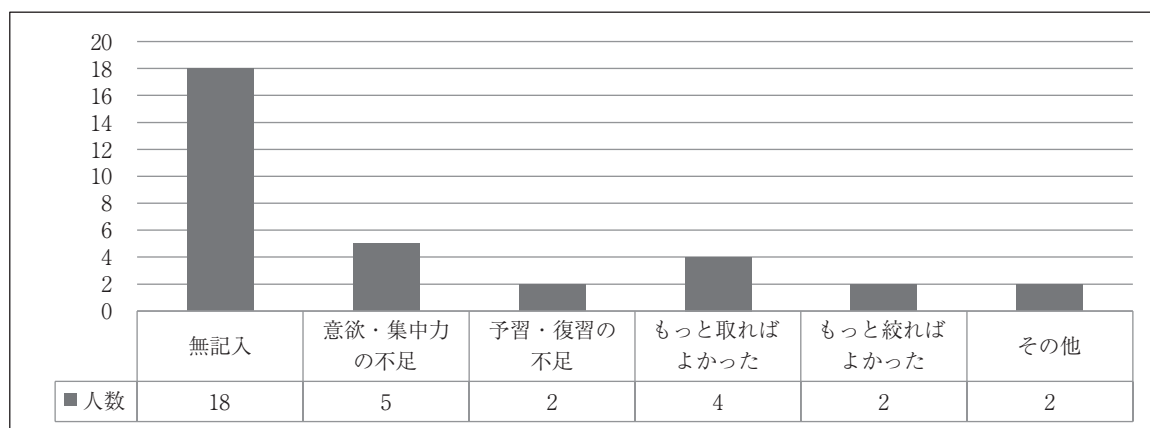


図11 【前期セミナーの反省点】

本設問「あなたの反省点があれば記述してください。」に対する回答も、無記入も含めて筆者が6項目に分類して集計した。例えば「自分の勉強時間が減るからこれはいいやと思っていたけど、全部取ればよかった。」(初等教育専攻)を「もっと取ればよかった」,「もっと自分の勉強時間を確保できるように、選択する科目を絞れば良かった。」(初等教育専攻)を「もっと絞ればよかった」として筆者がまとめた。結果は図11の通りである。その他としては,「二次対策(模擬授業)を前期セミナーからしておくと、二次試験直前に焦らず、落ち着いて練習に取り組めるのではないかと思った。」(中等教育専攻)という回答などがあった。

8. 前期セミナーへの要望・改善点

設問「教職センターや教員に改善して欲しい点、新たに入れて欲しい内容があれば記述してください。」に対する回答は無記入が多かった。少数ではあったが,「事前に講義でどんな内容をするのか,学習指導要領を取り扱うのかそれとも教養のどの分野をするのかなど詳しい内容を教えて欲しかった。」(初等教育専攻),「実習と被ってしまった際にオンラインでのセミナーも開いてほしかった。」(人間栄養学科)という意見があった。

9. 夏季セミナー・面接練習回数

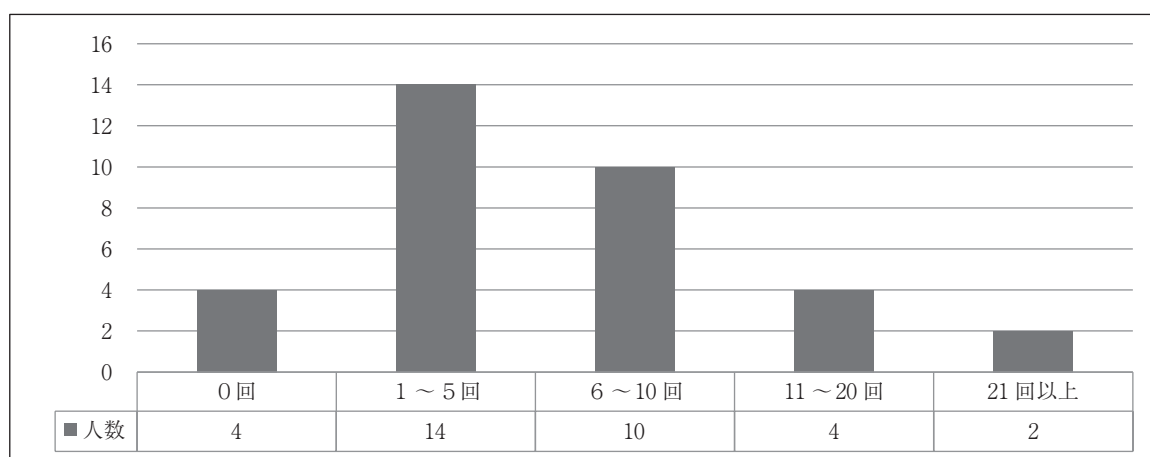


図12 【夏季セミナーにおける面接練習の参加回数】

次に、前期の7月くらいから夏季休業中に行われる面接練習の参加回数について報告する。結果は図12の通りである。面接練習の参加回数は、1～5回が最も多かった。「30回以上」(初等教育専攻),「数えきれないくらいした。」(初等教育専攻)と回答した学生もいた。「面接練習(先生8回,友達と10回くらい)」(初等教育専攻)と回答した学生もあり、学生同士で練習している回数も含まれていることがわかる。

10. 夏季セミナー・模擬授業回数

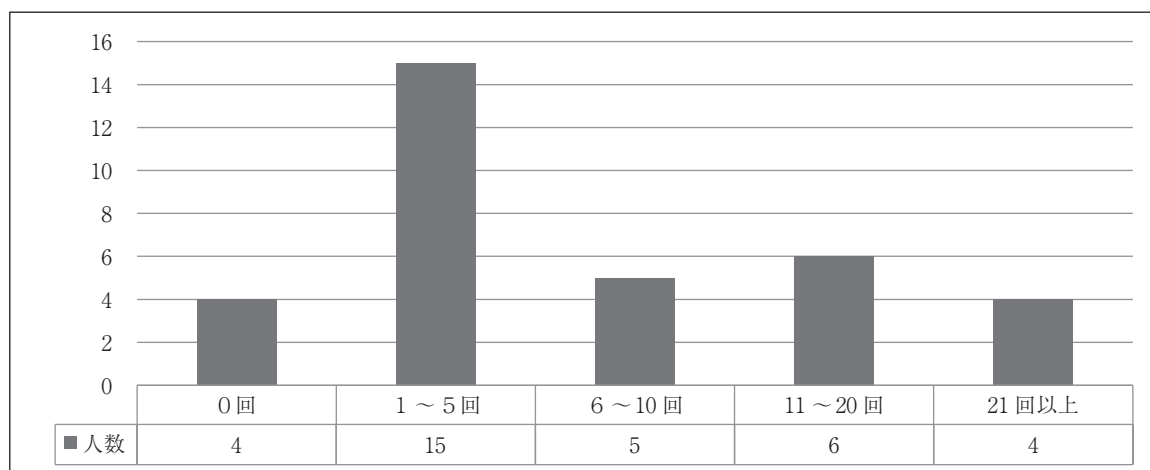


図13【夏季セミナーにおける模擬授業の参加回数】

次に、夏季セミナーにおける模擬授業の参加回数について報告する。結果は図13の通りである。模擬授業（模擬授業面接・場面指導も含む）の参加回数は、1～5回が最も多かった。「模擬授業（先生と5回、友達と6回ぐらい）」（初等教育専攻）と回答した学生もあり、学生同士で自律的・主体的に練習している回数も含まれていることがわかる。

11. 夏季セミナー・集団討論&グループワーク回数

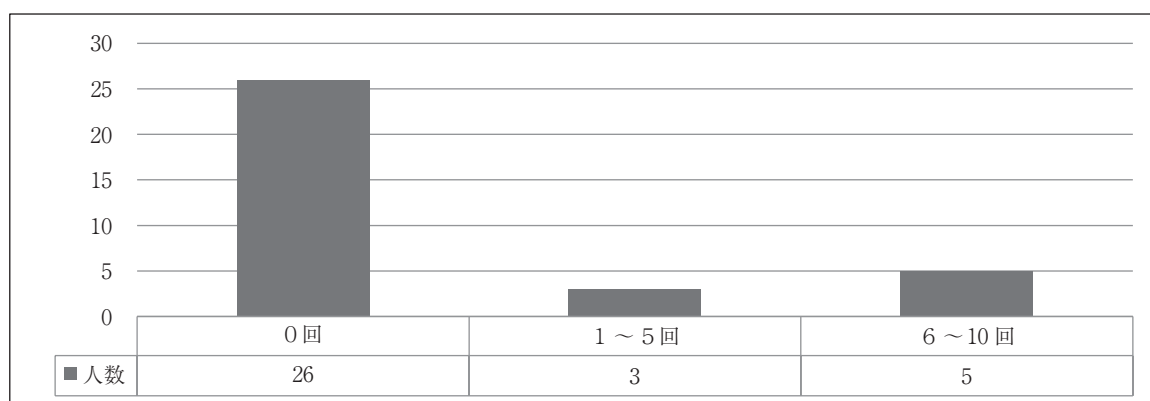


図14【夏季セミナーにおける集団討論&グループワークの参加回数】

次に、夏季セミナーにおける集団討論・グループワークの参加回数について報告する。結果は図14の通りである。集団討論・グループワークの参加回数は、6～10回が最も多かった。令和4年度実施の教員採用試験において集団討論・グループワークを実施している自治体を受験した学生が少ないため、参加人数は延べ8人であった。

12. 夏季セミナー・実技対策（体育・音楽・英会話・ICT活用）回数

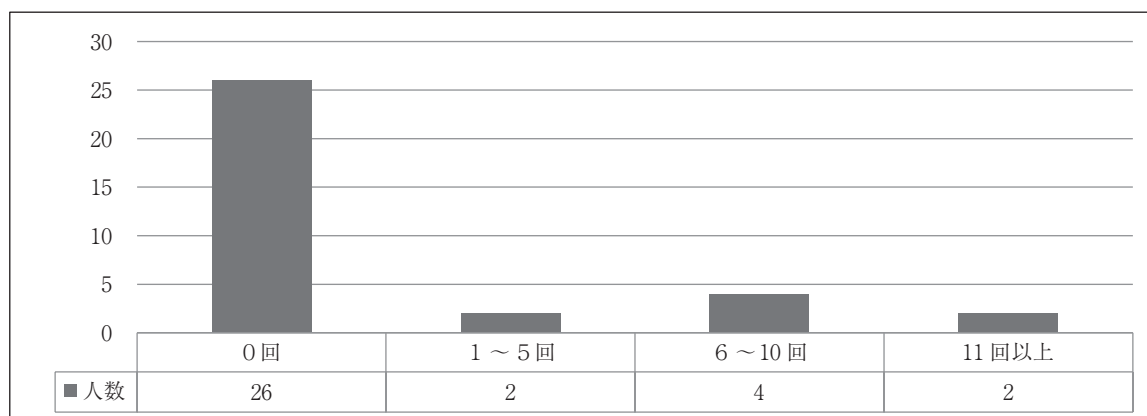


図15 【夏季セミナーにおける実技対策の参加回数】

実技対策（体育・音楽・英会話・ICT活用など）の参加回数は、図15の通り6～10回が最も多かった。令和4年度実施の教員採用試験において実技試験を実施している自治体を受験した学生が少ないため、参加人数は延べ8人であった。

13. 夏季セミナー・成果

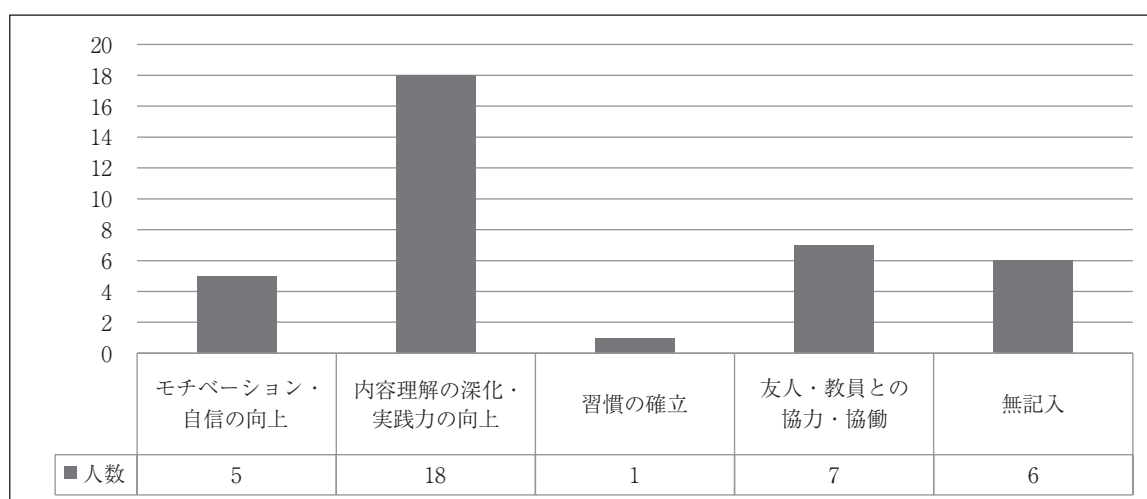


図16 【夏季セミナーの成果】

本設問「あなたの受験勉強にどのような影響を与えましたか。良かった点について考えを記述してください。」は自由記述であった。筆者が無記入も含めて回答を5項目に分類して集計した。例えば「自分のことについて詳細なアドバイスを先生方や同じグループの人からもらったので、自分自身の良いところ・改善点について知ることができたのでよかった。」（初等教育専攻）といった回答を「内容理解の深化・実践力の向上」、 「みんなで分担して教科書を印刷して模擬授業をすることでひと通りの授業を見ることができた。自分達だけでも、先生方と一緒にでも、面接練習をすると、人の意見も聞けるので自分に取り入れやすいと思った。」（初等教育専攻）初等教育専攻といった回答を「友人・教員との協力・協働」として筆者がまとめた。結果は図16の通りである。二次・三次試験が目前となり、教員採用試験対策も佳境を迎えたことから「内容理解の深化・実践力の向上」が最も多い回答となった。

14. 夏季セミナー・反省点

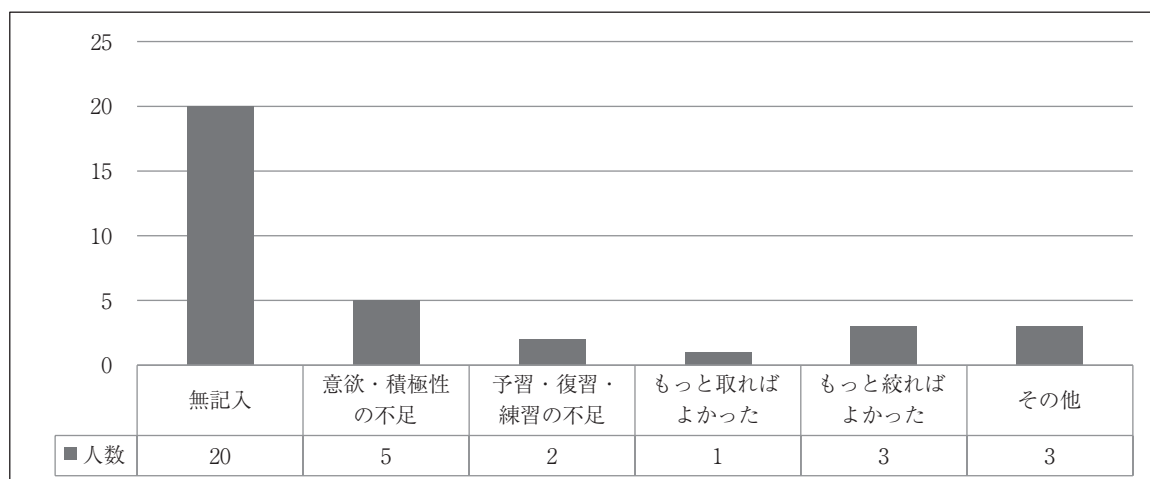


図17 【夏季セミナーの反省点】

本設問「あなたの反省点があれば記述してください。」に対する回答も、無記入も含めて筆者が6項目に分類して集計した。例えば「実技の自主練をもう少しやるべきでした。」(初等教育専攻)、「積極的な意見などができなかつたりした。」(初等教育専攻)を「意欲・積極性の不足」として筆者がまとめた。結果は図17の通りである。無記入が多かったが、その次に「意欲・積極性の不足」が多い結果となった。その他としては、「一次試験終了後ではなくもっと前から二次試験対策をしておくとうよかったのではないか。」(中等教育専攻)という意見があった。

14. 夏季セミナーへの要望・改善点

設問「教職センターや教員に改善して欲しい点、新たに入れて欲しい内容があれば記述してください。」については無記入が多かった。少数ではあったが、「中等が、初等の学生と一緒に二次対策を受ける機会を設けた方が良いと思った。自主的に初等の面接練習などを見に行ったときに、学ぶことが多かったためである。」(中等教育専攻)、「セミナーの日程について行き違いがあったり、日数が少ないと思ったりしたので、セミナー間や先生方とのもっと報・連・相を早めにして欲しい。」(初等教育専攻)という意見があった。「教職センターの先生が施設予約をしてくださったので、自分の勉強や対策をしながら運営をすることができ、とても助かりました。ありがとうございました。」(初等教育専攻)といった回答もあった。

15. その他(気づき等)

その他としては、「県人会で主に活動し、先生方には出来上がったものを見ていただき、改善する方が質の濃いものになる。」(初等教育専攻)、「先生に見ていただきアドバイスをいただくことも大切ですが、自分達だけの練習もとても大切だと思ったので、県人会を上手く運営することが重要だと思いました。」(初等教育専攻)という回答があった。教員による指導だけでなく、学生同士での学び合いも不可欠だという省察であった。「気づきではないが、面接対策セミナーの時の先生が一部に片寄りすぎている点はおおしてほしいと思った。」(初等教育専攻)、「セミナー委員ではなかったが、セミナーの参加回数を増やすために、委員や先生方と連絡を積極的に取った。その時に感じたこととして、自分のグループの代表が合否によりセミナーに参加しない場合など、先を見据えて代表を1人ではなく、数人立てて置くとスムーズになり、仕事を抱え込まずに済むのではないかと思った。」(中等教育専攻)、「集団討論やグループワークの対策が学生も少なく、練習機会をとることが難しかった。教採を受けるであろう3年生等を誘って練習できれば良かったと思った。」(中等教育専攻)という意見があった。筆者が把握している範囲では、少人数ではあったが協力しながら集団討論やグループワークの対策を行っていた。例えば、実際に筆者が指導・助言したグループワークのセミナー(鳥取県対策)では、受験自治体に集団討論やグループワークがない学生も参加して協力・協働している姿が見られた。

16. 後期セミナー・個別指導を希望するか（不合格者のみ）

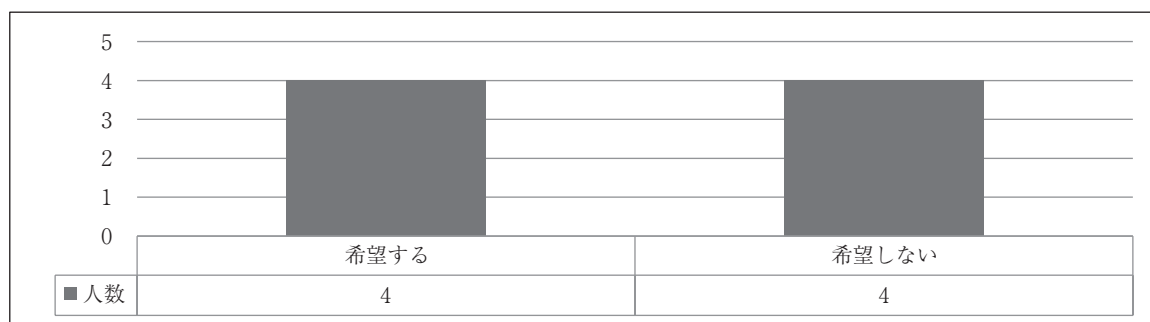


図18【後期セミナー・個別指導の希望（不合格者のみ）】

設問「今回残念ながら不合格だった人にお聞きします。後期にセミナー，もしくは個別指導があるとしたら，希望しますか。」に対する回答は，図18の結果となった。この設問は，令和4（2022）年度で新たに追加した設問である。結果として後期セミナーを実施することはできなかったが，学生の希望を把握するために実施した。

17. 希望する講座（不合格者のみ）

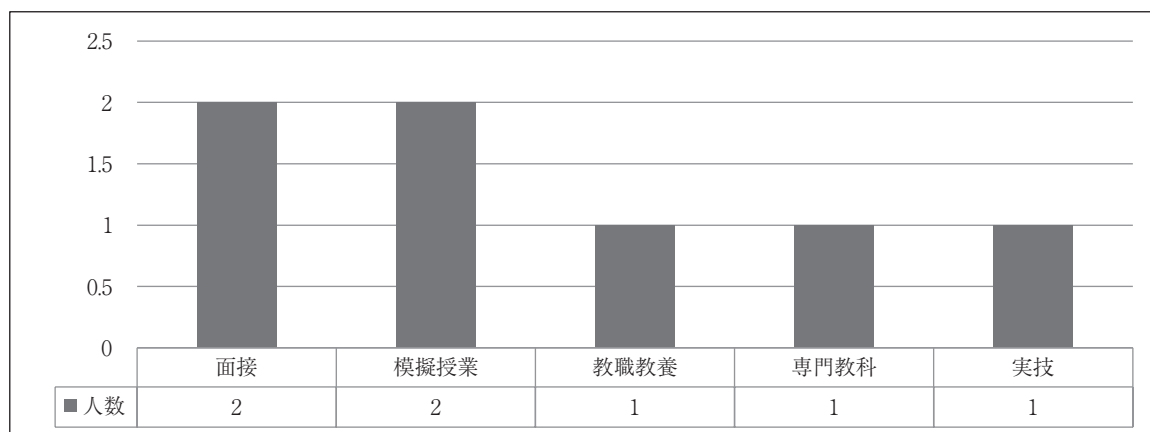


図19【後期セミナー・個別指導の希望講座（不合格者のみ）】

設問「24（上記16）で『希望する』を選んだ人は，例えばどのような講座を希望しますか。」に対する回答は，図19の結果となった。結果として後期セミナーを実施することはできなかったが，この設問も学生の希望を把握するために実施した。

Ⅲ 令和4（2022）年度セミナーの総括

教員・学生を対象としたセミナーについてのアンケート調査を実施した。令和4（2022）年度の教採対策セミナーでは，教育学科・人間栄養学科をはじめとする多くの教員の支援・協力をいただき，感謝している。アンケートで回答があったものを総括すると，春季セミナー 24コマ（平均1.5コマ），前期セミナー 77コマ（平均4.8コマ），志願書等添削述べ84人93回（平均5.2人5.8回），小論文指導延べ26人61回（平均1.6人3.8回），夏季セミナー延べ461人235コマ（平均28.8人14.6コマ）という結果となった。アンケートの回答に含まれない部分でも，多くの支援・協力をいただいたと筆者は捉えている。

今回のアンケートでは，特に学生の回答率が低かったため，今後は授業などを活用して調査を実施し，回答率を上げていきたい。調査結果を見ると，教員・学生ともに，支援する教員の偏りに言及していた。特に，夏季の二次対策セミナーでは参加する教員に偏りがあったため，少しでも多くの教員に協力を依頼したいと考えている。

学生対象のアンケート結果によると，セミナーの成果としては次の点が挙げられた。春季セミナーでは，主に「方向性の明確化」「モチベーションの向上」といった成果があった。前期セミナーでは，主に「内容理解の深化」「モチベーションの向上」といった成果があった。夏季セミナーでは，主に「内

容理解の深化・実践力の向上」「友人・教員との協力・協働」といった成果があった。特に二次試験対策では、模擬授業や面接練習など学生1人でできないことも多いため、「友人・教員との協力・協働」が挙げられていた。このことは、目前の教員採用試験だけでなく、将来教職に就いてからも役立つものであろう。現在の学校や幼稚園・保育所は多様な問題を抱えており、教員並びに保育士は組織として対応することが不可欠な状況である。セミナーでの取組、集団での学びを通して「協業」である教員の構えと資質・能力を身に付けることができると考える⁵⁾。

課題としては、令和4（2022）年度実施・教員採用試験の合格率が下がった点、特に広島県・市、中等英語の結果などが挙げられた。教育学科1期生の小学校の結果では、一次合格率83%（令和3年度94%）、二次合格率88%（令和3年度86%）、最終合格率73%（令和3年度81%）という結果となった。教育学科1期生の中学校・高等学校の結果では一次合格率47%、二次合格率75%、最終合格率35%であった。広島県・市の教員採用試験・小学校では、令和3（2022）年は1次受験者731名1次合格655名（89.6%）採用予定者数460名であったが、令和4（2023）年は1次受験者764名1次合格者531名（69.5%）採用予定者数425名であった。令和3年度実施の1次合格約90%を、令和4年度では約70%に絞り込んだ⁶⁾。教育学科1期生では、教採セミナー、学内模擬試験が実施されているにも関わらず、参加していない学生がいたことも課題であった。学生の要望により教採セミナーが実施されていること、他大学ではあまり見られない実践であることを強調して、学生に参加を促していきたい。不合格者への取組として後期セミナーを行うことはできなかった。不合格者を対象として臨時採用情報の提供などを行っているが、メンタル面のケアなど十分であったとは言えないのも課題である。教員対象のアンケート結果によると、課題としては、持続可能な体制の必要性、教員による担当数の平滑化の必要性、学科・学生・就職課などと教職センターとの連携・協働の必要性、学生の意識改革の必要性などが挙げられた。

受験者数 A	受験者延べ数 B	一次合格 延べ数C	一次合格率 C/B	二次合格 延べ数D	二次合格率 D/C	最終合格率 D/B
58 (38)	60 (40)	50 (34)	83%	44 (30)	88%	75%

※（ ）内は女子で内数。最終合格率には補欠合格者1人を含む。

図20 【令和4（2022）年度実施・教員採用試験の結果（小学校）】

受験者数 A	受験者延べ数 B	一次合格 延べ数C	一次合格率 C/B	二次合格 延べ数D	二次合格率 D/C	最終合格率 D/B
15 (8)	17 (10)	8 (7)	47%	6 (5)	75%	35%

※二次合格延べ数には、大分県の三次合格者数を含む。

図21 【令和4（2022）年度実施・教員採用試験の結果（中学校・高等学校）】

本調査結果を踏まえ、続く令和5年度の4年生（教育学科2期生）では例えば次の点を改善した。詳細は次稿に譲るが、2点のみ紹介する。

令和4年度の4年生（教育学科1期生）のセミナー委員長の意見を取り入れ、県人会でのつながりを強化して教採への取組にも繋げるため、教育学科2期生では3年次後期の教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）の班編成を自治体別に変更した。教育学科1期生では、中等国語・英語の勉強会と教採セミナーとの接続が課題であった。2期生のセミナー委員では中等の学生が副セミナー長として入ったことで初等教育専攻と中等教育専攻との連携・協力体制が改善されている。他には、中等教育専攻が初等教育専攻とともに学び合う機会を設けた方がいいという意見を、令和5（2023）年度の取組、例えば二次対策などでいかしたい。

今回のアンケート結果とは別に、中等教育専攻の学生から実習と重複した際オンラインで開いて欲しかったという意見を直接学生から聞いた。実習期間中は実習に専念させる必要があるが、実習前後で何か取組ができないか、検討したい。令和5（2023）年度の教職教養セミナーは、例年より早めの4月当初からに実施されることになった。令和5（2023）年度前期の中学校・高等学校の教育実習は、最も早い開始日は2023年5月8日、最も遅い終了日が2023年7月7日である（後期の学生も数名いる）。中等教育専攻では4年次前期に教育実習があることもあり、令和4（2022）年度前期においては英語・国語教員による個別指導は行っていた。令和5年度の教育学科2期生の春季セミナーでは、英語・国語のセミナーも増やしていただくことになった。

筆者個人では、令和4（2022）年度においては春季セミナー（図画工作2コマ・二次対策1コマ）、前期セミナー（図画工作5コマ、集団討論4コマ）、志願書等の添削（延べ12人）、夏季セミナー（模擬授業・場面指導、面接、グループワークなど54コマ）を担当した。中等教育専攻の学生から二次対策（模擬授業）を春休みからしておく試験直前に焦らないのではないかという意見があったこともあり、令和5（2023）年の春季セミナーでは1コマではあるが、二次対策・模擬授業のポイントについて筆者が取り上げることにした。参加学生の意見を取り入れ、模擬授業のポイントをさらに改訂していく予定である。

令和4（2022）年度の教職センターでは、年度当初から教採・就活ガイダンスの改善（担当者の分担）、教採結果の集約・配信の改善、教職関係の情報の積極的な配信（本学HP、学内ポータル）、大学推薦手順の整備、模擬授業指導の工夫などの改善を行っていた。今後も継続して改善を図りたい。

註、引用・参考文献

- 1) 今崎浩・佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第2号、2014年、pp.63-70。佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第3号、2015年、pp.99-106。佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第4号、2016年、pp.133-141。佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第5号、2017年、pp.99-105。佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第6号、2018年、pp.105-112。佐伯育郎「公立小・中学校教員採用試験等に向けた取組の実際」広島文教女子大学、教職センター年報・第7号、2019年、pp.99-106。研究論文としては、佐伯育郎・土村加奈・川西正行「採用試験などの進路に関する取組（チャレンジセミナー）の実態調査について～平成28年度 初等教育学科を中心に～」広島文教女子大学、教職センター年報・第6号、2018年、pp.17-26 において考察している。他には、教員採用試験対策の内容に応じて考察を行った。誌面の関係ですべて列挙はしないが、例えば集団討論セミナーについては、次の2稿において分析・考察を行った。佐伯育郎・徳本達夫「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅰ）～本学における取組の実際～」広島文教女子大学、教職センター年報・第3号、pp.17-34、平成27年。徳本達夫・佐伯育郎「教師教育における集団討論の意義と実践（Ⅱ）」広島文教女子大学、教職センター年報・第3号、平成27年、pp.35-50。
- 2) 様々な大学が、それぞれの方法で教員採用試験対策を行っている。例えば、広島大学では広島大学消費生活共同組合が教員採用試験対策講座を行っている（<https://www.hucoop.jp/career/teacher/index.html> 2024年1月25日取得）。同大学では、完全対策コースとして教職教養対策と現役大学生に特化した人物試験対策を組み合わせた講座を行っている。全120コマであり、大学生協割引価格で129,000円（税・教材込）となっている。大学の専任教員ではなく、専門業者が関わって指導・支援していると推察する。本学とは異なる方法で支援を行っている。
- 3) 令和3（2021）年度のアンケートは、前・教職センター長の石原義文教授が作成し、調査したものである。
- 4) 令和4（2022）年度の春季セミナーにおける実際の講座数は、スタート会と振り返り会を除いて37講座であった。
- 5) 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波書店、平成24年、pp.35-50。今津は、教職を目指す学生が「個業」から「協業」へと教職イメージを転換する必要があると述べている。本学におけるセミナーの取組が、教師としての資質・能力を高めるだけでなく、「協業」への準備になると筆者は考えている。佐伯育郎・土村加奈・川西正行「採用試験などの進路に関する取組（チャレンジセミナー）の実態調査について～平成28年度 初等教育学科を中心に～」広島文教女子大学、教職センター年報・第6号、2018年、pp.17-26。平成28年度の初等教育学科4年生を対象としたアンケート結果においても、セミナーで得たものとしては協同性（協働性）が最も多く（43%）、次いで学びの姿勢・意欲・方向性（32%）、知識・スキル（19%）、運営力（6%）であった。自由記述には、学びの習慣、知識・スキルが身に付いたことを実感しただけでなく、仲間との協同によって意欲が高まり、前進することができたという回答が多く、この点が本セミナーの一番の効果であると筆者らは考察した。
- 6) 時事通信出版局提供「2023年度受験者・合格者数・倍率一覧(2022.8.19現在)」(2022年8月26日取得)。

謝辞：教員採用試験対策セミナーについてのアンケート回答にご協力いただきました先生方、学生のみなさんに感謝いたします。誠にありがとうございました。